

マチカネワニ・デスモスチルス ～大昔の生き物を調べよう～

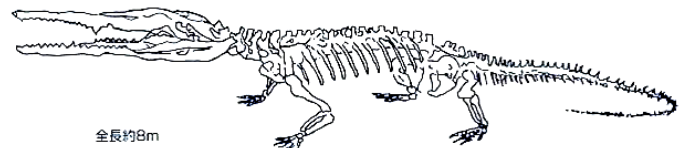
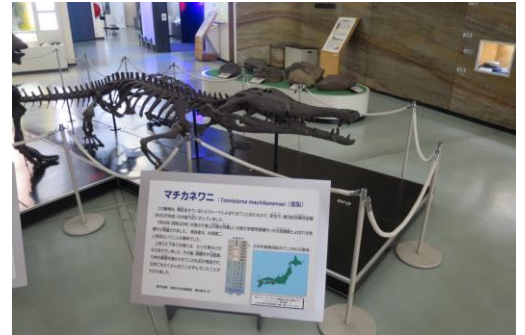
マチカネワニ、デスモスチルス、この2体の化石は、日本で発見された新生代の代表的な大型動物化石です。新世代とは、^{きょうりゅう}恐竜が絶滅して（約6600万年前）から^{げんざい}現在にいたる時代を指します。

？ マチカネワニは、どのような動物だったの？

マチカネワニの^{こっかく}骨格を調べると、現在のマレー半島、ボルネオ島、スマトラ島などの^{ちいみ}地域の真水にすんでいるワニとよく似ています。しかし、マチカネワニと同じ種のは、^{げんざい}現在地球上にはいません。

この化石は1964年の秋、^{おおさか}大阪府^{とよなか}豊中市の新生代第四紀更新世（170万年前～170万年前）の^{ちそう}地層から発見されました。マチカネワニという名前は、発見された待兼山という地名にちなんでつけられたものです。くわしい^{ちようさ}調査から、このワニは今から40万年前に大阪にすんでいたと考えられています。

現在のワニのなかまは^{ちいみ}熱帯を中心とする^{ちいみ}地域にすんでいます。このことから、40万年ほど前の大阪の気候は現在よりも^{あたた}暖かかったと考えられます。また、このマチカネワニの^{こうきやく}後脚を見て下さい。左右の足の骨の形が違うことに気がつきませんか？実はこのワニは生きていた間に足を骨折したようです。骨がずれてつながっていることから、骨折した後もこのワニはかなりの期間生きていて自然に骨折が治ったと考えられます。

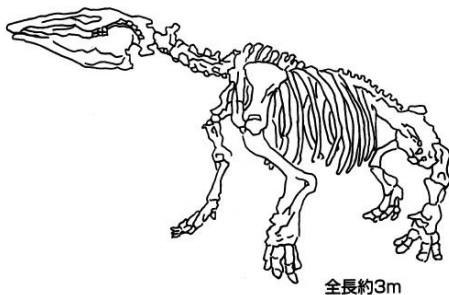


全長約8m

？ デスモスチルスは、どのような動物だったの？

デスモスチルスは^{ほにゅう}哺乳類のなかまで、新生代第三紀の^{ぜんしんせい}漸新世から中新世という時代にかけて住んでいたものと^{すいてい}推定されています。現在、このなかまの動物は^{ぜつめつ}絶滅して地球上にはいません。

デスモスチルスという名前は、^{とくちょう}特徴的な歯の形から名付けられました。「デスモ」は「束ねる」、「スチルス」は円柱という意味で、まさに円柱を何本か束ねたような形の歯をしています。デスモスチルスはその歯の形から、草を食べていたのだらうということがわかります。この動物の化石は日本列島^{からふと}や樺太など太平洋をとりまく^{ちいみ}地域の地層から見つかっています。また、^{こつ}骨密度の低さから水中での生活に^{てきおう}適応していたと考えられます。



全長約3m



たんきゅう 探究・研究コーナー！ 調べてみよう！

新生代の化石には、マチカネワニやデスモスチルス以外にもいくつか発見されています。その化石がどのようなものが、調べてまとめてみましょう。